



Sense Island -感覚の島- 暗闇の美術島 2022

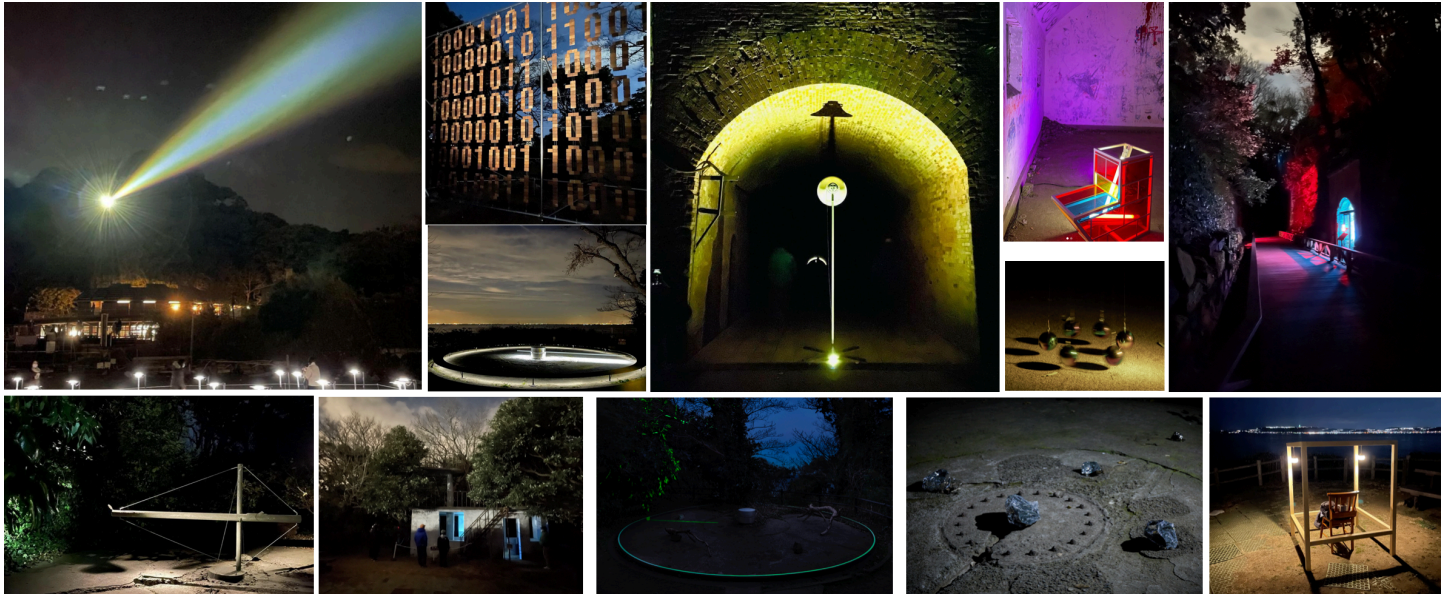
Sense Island Sarushima Dark Museum 2022

2022年のテーマは「Behave（感覚行動）」

Sense Island は、横須賀の無人島「猿島」を舞台に2019年は秋に、2020年はコロナ禍による延期を経て、2021年は冬に開催いたしました。携帯を封印し、暗闇の中で自分の感覚を研ぎ澄ませて猿島の自然と作品と対峙するこの芸術祭は、人との対峙ではなく自然と時間と感覚に向かい合う唯一無二の芸術祭として実施することができました。

テクノロジーや時間の概念を取り払い、猿島にある自然の文脈を感じ自分自身と向き合うような作品や体験を通して、元々私たちが持っていたであろう”感覚”をもう一度取り戻したい。これまでの Sense Island のコンセプトを基礎に、今年では来訪者の感覚を最大限にひらくために「Behave（感覚行動）」をテーマに作品やパフォーマンスなどを展開していきます。

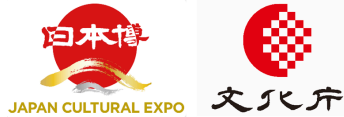
今年では猿島だけではなく街側にも作品やプロジェクトを展開し、横須賀全体に感覚を広げられるプログラムを企画していきます。



Sense Island 2021 の展示風景

## 開催概要

- タイトル Sense Island -感覚の島- 暗闇の美術島 2022 (英語表記: Sense Island Sarushima Dark Museum 2022)
- 開催日時 一般会期 2022年11月12日 [土]~12月25日 [日] 会期中の金土日および祝日 \*21日間  
内覧会(予定) 2022年11月9日 [水] \*荒天の場合は11月11日 [金]
- 開場時間 日没以降予定
- 会場 猿島一帯 (神奈川県横須賀市猿島1番)
- 料金 9月中旬予定
- URL <https://senseisland.com>
- 主催 Sense Island 実行委員会 (横須賀集客促進・魅力発信実行委員会、株式会社アブストラクトエンジン、株式会社トライアングル)
- 助成



令和4年度文化資源活用推進事業

神奈川県川崎競馬組合が主催する「川崎競馬」の利益配分金を活用した神奈川県市町村自治体基盤強化総合補助金対象事業

- 特別協賛 株式会社 博展
- 協力 ArtSticker (株式会社 The Chain Museum)、ウシオライティング株式会社
- 参加アーティスト (50音順) 梅川壱ノ介、齋藤精一、齋藤帆奈、TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH PROJECT、中村寛 ほか予定
- タイアップアーティスト HAKUTEN CREATIVE、ArtSticker (株式会社 The Chain Museum \*アーティストは後日発表)
- 連携イベント 順次発表予定

## 東京湾要塞が残る自然豊かな無人島 猿島

三笠桟橋から東の海上1.7km先に東京湾唯一の自然島、猿島があり、片道約10分で渡ることが出来ます。

島の歴史は古く、縄文時代・弥生時代から古墳時代の石器や土器などが出土しています。島内には明治時代の煉瓦造の掩蔽部(えんぺいぶ)や弾薬庫、隧道などが良好に残っており、東京湾要塞跡として国の史跡に指定、日本遺産の構成文化財にも認定されています。現在は、バーベキュー、音楽やアートイベントなど、豊かな自然と歴史の中でプラスαの体験が楽しめる無人島として多くの人々が訪れ賑わい、よこすかルートミュージアムなどの観光ルートでも紹介されています。

よこすかルートミュージアムは、横須賀に点在する開国から近代につながる歴史、文化の見どころや自然豊かなスポットを「サテライト」と呼び、それらを「ルート」でつなぐことで市内全体を大きな「ミュージアム」としてとらえた横須賀の新しい楽しみ方です。無人島の自然と史跡を楽しめる猿島も、よこすかルートミュージアムの「サテライト」の一つです。  
よこすかミュージアム <https://routemuseum.jp/>



## プロデューサーメッセージ

---

今、あなたには何が見えますか？

今、あなたには何が聞こえますか？

今、何に触れていて、そこから何が伝わってきますか？

人類へと続く種が誕生してから500万年、人類としての活動が始まってから約1万年。

人間は周囲の自然やそのルール、到底かなわない力やさまざまな恵みと共に変化し続けてきました。

文明の進化と言われる大きな変化は、自然や生物としての人間の本能をも超えつつあり、環境破壊やそれによって起こる気候変動の影響は歴史上あまりにも大きく、地質学的に「人新世 | アントロポセン」人類中心の時代となったとも言われています。

もう一度人間が、感性豊かな生物であることを多くの人に感じてもらいたい。

アートという創作物を通して、さまざまな感覚を呼び戻すきっかけを作ってもらいたい。

Sense Island - 感覚の島 - はそんな考えから2019年に第一回目を開催しましたが、翌年にはコロナウイルスという未曾有の危機に全ての人とともに直面しました。

今現在でも「人間」という生物の存在がゆらぎ続けていることを痛感します。

東京湾で唯一の自然島である猿島に、普段足を踏み入れることのできない夜に、Sense Island は開催されます。猿島ではカメラやインターネットを遮断し、目、耳、鼻や皮膚から取り入れる情報だけを頼りに島内を巡り、音、光、カタチを発する様々な作品やパフォーマンスを通してもう一度、生物としての自分と自分の持っている本来の感覚を体感して欲しいと考えています。



SENSE ISLAND プロデューサー 齋藤 精一 (パノラマティクス主宰)

1975年神奈川県生まれ。建築デザインをコロンビア大学建築学科 (MSAAD) で学び、2000年からニューヨークで活動を開始。03年の越後妻有アートトリエンナーレでアーティストに選出されたのを機に帰国。フリーランスとして活動後、06年株式会社ライゾマティクスを設立。16年社内に設立された3部門の中のひとつ、「アーキテクチャー部門」を率いる。2020年ドバイ万博日本館クリエイティブアドバイザー。2025年大阪・関西万博 People's Living Lab クリエイター。

---

## 猿島へのアクセス

京急線「横須賀中央」から下車徒歩約15分、またはタクシー約5分で三笠橋へ。フェリー乗船約10分にて猿島へ。  
「横須賀中央駅」まで：京急線「品川」から約43分、「横浜」から約25分。※日中の快速特急を利用した場合

---

## お問い合わせ

全般お問い合わせ

Sense Island 実行委員会事務局(横須賀市文化スポーツ観光部企画課)

TEL 046-822-8427(平日 9:00-17:00) senseisland.yokosuka@gmail.com

広報用画像などプレスお問い合わせ

株式会社いろいる 担当：市川 press@iroiroiro.jp